

令和元年度購入文化財一覧

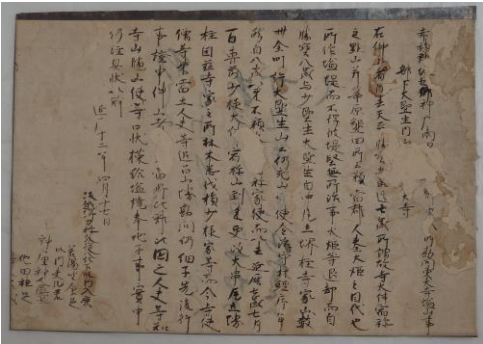
【奈良国立博物館】（計3件）
＜彫刻＞（1件）

1 名称	木造二十八部衆立像のうち 迦楼羅王、五部淨居天、毘沙門天、毘楼博叉天 （もくぞうにじゅうはちぶしゅうりゅうぞうのうち かるらおう、ごぶじょうごてん、びしゃもんでん、びるばくしゃてん）	品 質	木造、彩色（現状古色塗り）
作 者 等		員 数	4軀
時 代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	〔迦楼羅王〕総高61.8cm 像高53.5cm 〔五部淨居天〕総高62.8cm 像高55.5cm 〔毘沙門天〕総高62.7cm 像高55.2cm 〔毘楼博叉天〕総高61.8cm 像高53.4cm
作品概要	4軀いずれも像高・作風が近く、一具の二十八部衆像を構成していたと考えられる。各像とも自然な姿勢をとり、甲や衣の表現は的確であり、仏師の優れた技量がうかがえる。鎌倉時代中期（13世紀半ば）頃に遡る作品と推定され、京都・妙法院（三十三間堂）の二十八部衆像とほぼ同時期の大変貴重な作例と判断される。		
購入金額	64, 800, 000円		



＜書跡＞（1件）

2 名称	南都寺社古文書・古記録等 （なんとじしゃこもんじょ・こきろくとう）	品 質	紙本墨書
作 者 等		員 数	22通
時 代	奈良時代～室町時代（8～15世紀）	寸 法 等	縦25.6cm～32.3cm 横16.4cm～53cm
作品概要	東大寺や春日社周辺に伝来した古文書・古記録の一群で、奈良市内の石崎家の旧蔵品。二曲一隻の屏風に貼られていた。東京大学史料編纂所により明治37年（1904）に調査され、『平安遺文』や『鎌倉遺文』、『大日本史料』などにも収録されている。古くは天平勝宝2年（750）の摂津職関連の文書断簡があり、正倉院文書との関連が目される。また長久4年（1043）の「藤原実遠解」は東大寺領黒田庄経営に関わる学史的にも有名な文書である。最も新しい年記を持つものでも長享元年（1487）年の春日社造替に関わる記録である。南都の地域史のみならず、我が国の古代・中世史料として第一級の価値をもつと判断される。		
購入金額	27, 000, 000円		



<工芸> (1件)

3 名称	熊野三所権現懸仏 (くまのさんしょごんげんかけほとけ)	品 質	銅製 鍍金
作 者 等		員 数	1面
時 代	鎌倉時代 (13世紀)	寸 法 等	径32.7cm
作品概要	一枚の円板に阿弥陀如来、千手観音、薬師如来の三尊の半肉彫像を取り付けた懸仏。三尊はそれぞれ熊野本宮、熊野那智社、熊野新宮の本地仏と考えられ、いわゆる熊野三所権現を表したものと推定される。鏡板を木胎とせず銅板作りとし、天蓋や華瓶を附属せず、また鑲座に獅嚙を採用しない点などは初期の懸仏の要素を残している。また仏像の表情や肉取、精巧な透彫の光背の表現などにより、本品は13世紀半ばから後半頃の作と推定される。中世の熊野信仰に関わる工芸遺品としてきわめて貴重である。		
購入金額	8,640,000円		

